



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

アルジェリア：石油施設襲撃事件（2）

中東調査会イスラーム過激派モニター一班

アルジェリア南東のアイリジ県での石油施設襲撃事件について、「血判部隊」を名乗る団体がモーリタニアの報道機関を通じて犯行声明を発表した。声明を入手した報道機関が、内容を編集・引用して記事を配信しているため、声明の全容と信憑性は不明である。アラビア語紙などの報道では、この団体はイスラーム的マグリブのアル＝カーイダ（AQIM）と同一視されている。しかし今般の事件の犯行集団や事件についての声明などについて考える上では、以下の点に留意しなくてはならない。

1. 正式な声明が発表される可能性について

これまで AQIM は大規模な攻撃事件や外国人誘拐やその意図・過程について、「アンダルス広報製作機構」なる広報部門を通じイスラーム過激派が広報や扇動を行うインターネット上の掲示板サイトに発表してきた。しかし、近年本来の活動地であるアルジェリアで AQIM の活動が停滞すると、マリやニジェールでの外国人誘拐事件などについて、「アンダルス広報製作機構」を通さず、実行部隊が報道機関に直接露出し、正式な声明が発表されない事例が増加してきた。今回の「血判部隊」による声明も、この様な形で流出したものであり、今後も「血判部隊」が AQIM の指揮や広報活動を経由せずに作戦行動や情報の発表を行う可能性が高い。（その場合は、声明や映像などが発表されても、その完全版を我々が入手・検証できる可能性は低く、報道機関が編集引用した情報に頼らざるを得なくなることが予想される。）

2. イスラーム的マグリブのアル＝カーイダの現状について

今回のような事件が発生するとイスラーム過激派の脅威や勢力の伸張が懸念されるが、AQIM は組織としての機能や統制が低下している。広報活動は、彼らが「テロ組織」として自身の政治的主張や要求を世に知らしめる上で実際の作戦行動以上の重要性を持っている。従って、今般の事件のように、前線の実行部隊に当たる集団が独自に広報活動を行うことは、AQIM の組織としての機能・統制の低下を如実に示すものである。事件について犯行声明を出したとされる「血判部隊」も、2012 年後半に AQIM より「覆面部隊」を名乗る集団が分派したことを基にしている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799